

2021年8月30日

報道関係各位

インクル Tech(インクルテック)で社会課題を解決する
株式会社 Lean on Me

障がい福祉専用 e ラーニングの新コンテンツ！

「**放課後等デイサービス**の現場から～知的・発達障がいの子どもの理解と支援」

コンテンツ数700以上！

インクル Tech※(インクルテック)で社会課題を解決する「株式会社 Lean on Me」(リーオンミー、本社:大阪府高槻市 代表取締役:志村駿介)は、障がい福祉に関わる方を対象に提供している、障がい福祉専用 e ラーニング「**Special Learning(スペシャルラーニング)**」に、新たな研修コンテンツをアップしました。

※インクル Tech とは、インクルージョン(Inclusion)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語で、SDGs に関心が高まる今、ソーシャルな課題の中でも、多様性の包摂を実現するテクノロジーを意味しております。

今回アップしたのは、「放課後等デイサービスの現場から～知的・発達障がいの子どもの理解と支援」と題するコンテンツ(全 37 本)です。講師は「自閉症 e-サービス 中山清司さん」です。

障がいのある子どもたちの大切な居場所である「放課後等デイサービス」。

小学生・中学生・高校生を対象に、放課後や休校日の時間を活用して、自立した日常生活を営む訓練や学習指導、そして余暇を楽しむためのサポートを行う場所です。これらの支援には、知的・発達障がいがある子どもの特性の理解が欠かせません。カリキュラムでは、数多くの子どもと接してきた中山清司さんに、特性を理解した上でのサポート方法や、放課後等デイサービスの役割を解説頂きました。

例えば・・・

- ・言うことを聞かない子どもへの注意の仕方や効果的な伝え方とは？
- ・ステップアップも含めた効果的な課題の与え方とは？
- ・お手伝いの促し方や、複数の子ども同士が遊ぶ際に必要な注意点は？ など。

障がいのある子どもたちは、地域支援の中で過ごしています。放課後等デイサービスのスタッフの方のみならず、学校や家庭、そして関係する方々にもご視聴頂き、連携が深まることで、障がい者にやさしい街づくりの一助になれば嬉しいです。

新コンテンツご担当 自閉症 e-サービス 中山清司さん



新たな自閉症支援を構築することを目指し、事業所の運営に留まらず、全国規模でのネットワークを構築。

現在、「放課後等デイサービス」「児童発達支援」事業所が4カ所、「生活介護」「自立訓練」事業所を3カ所の運営を行うなど、現場支援にこだわり活動が続ける。

今回のコンテンツでは、多くの自閉症の子どもたちと接してきた経験をもとに、放課後等デイサービスの現場で必要となる支援方法を具体的に解説。

障がいのある子供たちに関わる関係者の方々も、理解を深める意味も含めて、是非ご覧ください。

新カリキュラムより 学校との連携のポイント(コンテンツ No.7)

知的障がい・発達障がいのある子どもの理解と支援
学校との連携のポイント

「お互いが情報を
知っておく」

日常的にご家庭や学校とよく連絡を取る

The diagram illustrates the flow of information between three entities: '学校' (School), '家庭' (Family), and 'デイサービス' (Day Service). A central figure of a '子ども' (Child) is connected to each. Bidirectional arrows indicate mutual information exchange between the school and family, and between the family and day service. A vertical double-headed arrow connects the school and day service. A text box on the right emphasizes the goal: 'お互いが情報を知っておく' (Let's share information with each other). Below the diagram, it states '日常的にご家庭や学校とよく連絡を取る' (Regularly maintain good communication with family and school).

コミュニケーションの取り方(コンテンツ No.22)

知的障がい・発達障がいのある子どもの理解と支援
コミュニケーションの取り方

コミュニケーションの取り方
言葉だけでなく
視覚的にわかりやすい
工夫をする

てあらい

上から順番に並べてあげると

The image shows a person holding two visual communication cards. The top card depicts hands being washed under a faucet, labeled 'てあらい' (washing hands). The bottom card shows a blue cup and a plate with food. A text box on the left explains the purpose: 'コミュニケーションの取り方 言葉だけでなく視覚的にわかりやすい工夫をする' (Communication method: making visual aids to understand beyond words). Below the cards, it says '上から順番に並べてあげると' (When arranged in order from top to bottom).



新コンテンツの目次(全 37 本)

- 1,言うことを聞いてくれない子ども
- 2,様々な子どもと一緒に過ごせる教室の作り方
- 3,視覚支援のアイデア
- 4,支援記録の取り方と活かし方
- 5,相談される支援員とは？
- 6,放課後等デイサービスに期待されるもの
- 7,学校との連携のポイント
- 8,自立課題について
- 9,学習課題について
- 10,家事活動や余暇活動の取り組み
- 11,教室のレイアウトを考える 1
- 12,教室のレイアウトを考える 2
- 13,片付けの習慣
- 14,終わりの理解
- 15,日課の組み立て
- 16,係活動
- 17,自由時間の過ごし方
- 18,個別の評価①行動観察
- 19,個別の評価②話を聞く
- 20,個別の評価③スタッフの捉え方
- 21,家族から話を聞く
- 22,コミュニケーションの取り方
- 23,教え方
- 24,注意の仕方
- 25,高機能自閉症の子どもたち
- 26,学校での様子
- 27,デイサービスの利用ニーズ
- 28,高機能自閉症の子どもたちとの関わり方
- 29,得意なことと苦手なことを見極める
- 30,好きなことからやってみよう
- 31,学習支援の基本
- 32,勉強を進めるためのちょっとしたアイデア
- 33,ライフスキルを教える
- 34,身近なことからやることリストを作る
- 35,ひとつずつ教えていく
- 36,できるようになったら生活の中へ
- 37,子どもの話を聞く

「Special Learning」について

コンテンツ数700以上！社会福祉法人の職員様や、障がいのある方を積極的に雇用する一般企業の社員様を対象に、障がい者を支援するうえで必要となる知識をインターネット動画で学ぶことができるオンライン研修サービスです。日常の支援でつまずいた時、自分がいま必要とする知識(コンテンツ)を自ら選択して学ぶ(視聴する)ことで、実際に適切な支援をおこなうことができるようにサポートします。現在 45 都道府県 1400 以上の事業所で導入いただき、ユーザー数は 31,000 人を超えています。



Lean on Me PRESS RELEASE

株式会社リーンオンミーについて

社名:株式会社 Lean on Me

所在地:(本社)〒569-0093 大阪府高槻市萩之庄 5-1-1-502

(大阪支社)〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 1丁目 9番 20号 新中島ビル 8階 GH

(東京支店)〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-2 日本ビル 12階

TEL:072-648-4438

設立:2014年4月1日

資本金:3,730万円(準備金を含む)

代表者:志村 駿介

URL:<https://leanonme.co.jp>

事業内容:障がい福祉専用 e ラーニング研修「Special Learning」
知的障がい者テニス教室「Special Tennis」

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 Lean on Me:引間(ひきま)

TEL:070-3164-1913/FAX:072-648-4438/

E-mail:info@leanonme.co.jp
